

平成28年度

富山市民

感謝と誓いのつどい

とき 平成28年8月1日(月) 午後1時30分
ところ 富山国際会議場 メインホール

主催/富山市民感謝と誓いのつどい実行委員会・富山市

富山市自治振興連絡協議会
富山市老人クラブ連合会
富山市母親クラブ連絡協議会
富山市中学校長会

富山市社会福祉協議会
富山市民生委員児童委員協議会
富山市PTA連絡協議会

富山市遺族会
富山市児童クラブ連絡協議会
富山市小学校長会



小学生絵画最優秀賞



「空までとどけ! 未来のと山タワー」
富山市立東部小学校 4年 栗田 大翔さんの作品

三・四年生の部



「宇宙につながる富山市」
富山市立八幡小学校 4年 加藤 百華さんの作品

小学生絵画優秀賞

三・四年生の部



「どこでも遊べる楽しい富山市」
富山市立寒江小学校 4年 田中 日乃架さんの作品

富山市のあゆみ展

■日時・場所

7月30日(土) 午前10時～午後6時
7月31日(日) 午前9時～午後6時
8月1日(月) 午前9時～午後4時
富山国際会議場 1F交流ギャラリー

■内容

富山市の歴史の紹介や、市民生活の変遷を写真等のパネルで展示するほか、小学生が描く絵画「未来の富山市」も展示します。

このプログラムは再生紙を使用しています。



「楽しい未来」
富山市立呉羽小学校 6年 高長 莉乃愛さんの作品

五・六年生の部



「深海・ザ・富山」
富山市立新保小学校 5年 石橋 凌央さんの作品

五・六年生の部



「22世紀の富山市」
富山市立光陽小学校 6年 高柳 乃彩さんの作品

五・六年生の部

「幸運だったわが家の防空壕」

富山市森四丁目 谷川 美枝

昭和二十年八月一日の富山の空襲は、今もはつきりと思い浮かんでくる。父とともにバケツの水で縁側の二発の焼夷弾を消したものの、二階からの炎で焼失したわが家。それと病弱の祖母を守ってくれた防空壕。それからの家族のすみかとなった防空壕はありがたい存在であった。

わが家は、今の教育文化会館や総合庁舎のあたりで、隣と後ろに県官舎が四軒余りの静かな隣保であった。当夜は一回目の空襲警報が解除されると、少し安心して寝ようとしていた。女学校の四年生だった私は、軍需工場での作業に追われていて、家には寝るためだけに帰っているような毎日であった。夜半十二時すぎに再度空襲警報が出され、慌てて祖母・父母の三人とともに庭に掘られた防空壕へ避難した。祖母は六十五歳であったが、半身不随のため自分で動くことができず、日常的には怖がる祖母の手をとりながら「大丈夫、大丈夫、少しの辛抱だから」と、父母が声をかけ励ましていた。右手右足の不自由な祖母は、左手で母にしがみつき、湿気が多いごさの上で警報の解除を待っていた。

壕は幅一・八メートル、長さ三メートル、深さ一・五メートル余りであったろうか。父が職場の人に手伝ってもらって、一週間ほどかけて造り上げたものだった。壕は何本の柱を支えられ天井と壁と床には板が張っており、がっしりとしていた。天井の上には掘り上げた土がすっぽりとかけられており、外観は小高い丘のようにも見た。

B29の爆音が聞こえて間もなく、愛宕町の一角から火の手があがり、次々に斜めに落ちる焼夷弾がいよいよ「不安で足がすくんだ。程なく縁側に二本の焼夷弾が突きささり、「シユネシユ」と火を噴いている

の目に入り、父とふたりで夢中で玄関横の防火用水からバケツで必死に水をぶちかけた。数回ずつ水をかけたら意外にも早く消えたものの、ほっとしたのも束の間、二階のガラス戸が赤く、二の部屋が燃えているのが見えた。次第には火の勢いが強くなり、おろおろしている間に木造家屋はまたたく間に炎の中に消え、跡形もなく燃え尽きてしまった。どうすることもできないどこかしらに、ただ悔しくて、父と二人で泣きながら見つめていた。一方、壕の中では母が祖母には見せまいとして二人で頭から毛布を被っていたらしい。壕は家屋から約十メートル離れていて、上に多くかけてあった土が幸いしたのと、焼夷弾が突き刺さらなかったこともあって奇跡的に無傷であった。祖母が一心に念仏を唱えていたおかげだったのかも知れない。不自由な身でどんなにか恐ろしかったのかと、申し訳ない思いが残っている。

波状的に落下する焼夷弾はその後も続きこのままではとても駄目だと思い、私たちは壕をあとにした。前の道路を多くの人が神通河原へ避難しようと「早く逃げる」と叫びながら走り去っていく。私たちは走ることができず、前の空き地に布団を敷き、毛布をすっぽり被つてうずくまった。少しでも低い所で私は溝に身をかがめた。すぐ傍に落ちた焼夷弾から火が噴き出し、枯れ草が燃えるなか、父と母は、あちこち布団を動かしながら祖母を引きずって移動した。みんな直撃を避けるのに必死だった。「ヒューブス」「シルシル」という不気味な音に不安で身の縮む思いだった。

飛行機の音がしなくなったころは、夜明け近くだった。祖母をはじめ、わが家全員が無事であったことは、本当に不思議なくらいである。

焼け落ちたわが家は、まだくすぶっていた。これが昨日までの家であったのかと思うと、やり切れない思いでいっぱいだった。

近所のNさん宅の防空壕から、年配のご夫婦が焼死体となって見つかったとの悲報が伝わってきた。同じ隣保だったので親しくさせてもらっていた。息子さんがご

両親のために「これなら安心だ」と造ってあげられた頑丈な壕だった。一度見せてもらったが、柱や階段の数が多く、深さも広さもより一つの部屋がすっぽり地下に作られたような立派なものだった。壕の後片付けのお手伝いに行ったときの、黒光りして硬直した裸のご遺体は気品さえ感じられ美しいものに見えた。損傷が少なかったのは、やはり壕の造りにあったのだろうか。

もう一軒Mさん宅のご家族は、本当にお気の毒であった。焼け落ちた壕の出口で、幼い男児二人を抱えて母子三人が下敷きになっておられた。危険を感じて外へ出ようとしたときに直撃を受けたのだらうか。

痛々しい姿であった。宿直勤務から戻られたご主人の悲しみに満ちた顔は今も忘れられない。

安全を信じて造られたはずの防空壕が、煙に巻かれ一家全滅となられた話は諏訪川原に多かったようである。それに比べるとわが家の防空壕は本当に幸運であった。神仏のご加護をいただいたのだと信じている。

それからの二ヶ月間、わが家の防空壕での生活が始まった。八月中は全く雨が降らなかったで、雨漏りの心配がなくて都合がよかった。湿気が多い壕の中では祖母の身体が気がかりで、一日に何回も誰かが背負って外の空気に触れさせてあげた。両足のすり傷は痛々しく、タオルで冷やしたり赤チンをすりつけたりするこ

とくらしいかできなかつた。夜は祖母をまんなにして、身体を折り曲げるようにして寝た。十月になってから、焼けたトタンでのバツク小屋が出来上がり、やっと地上の生活に戻ることができた。祖母は「みんなに迷惑をかけて済まない」を口癖にしていたが、どうにか一冬を過ごすことができた。その祖母も二年後にこの世を去り、二十九年には父も病にて他界した。それぞれ苦勞の多い人生であったと思うが、私にはいろいろなことを教えてもらい育てていただいた大切な肉親であり、私の今日あることへの感謝をひしひしと強くしている。

「伝え、育むふるさと富山」

富山市立呉羽中学校三年

砂

綾乃

広島の朝は、すがすがしく晴天の空だった。およそ十数万人余りもの人達の命と生活のすべてを焼き尽くした原爆が、こんな綺麗な空からやってきたことなど信じられなかった。

私は、今回、修学旅行で初めて広島を訪れたが、初めて目にする原爆ドームは、原爆の凄まじい破壊力を物語っていた。広島では原爆投下後、50年は草木が育たないといわれるほどの惨状であったという。

広島平和記念資料館では、昔と今の広島姿に触れ、戦争の悲惨さと平和の大切さを強く痛感した。70年前の戦争が嘘のように復興を遂げた広島街は、美しい丘陵地に囲まれ、故郷富山に似ていると感じた。

かつて、富山も戦争中に空襲による甚大な被害を受けた。昭和20年8月1日、多数のアメリカ軍機により被害を受け、2700名余りの死者と多数の負傷者を出し、当時の市街地の99%以上が消失したという。その被害は広島、長崎を除く地方都市の中では、最も大きいものであり、城下町の面影を残す富山は、一日にして焼け野原になった。

以前、社会科の授業で新聞記事のスクラップを作成したとき、富山大空襲のことを調べたことがあったが、自分の住む町にこのような悲惨な歴史があったことに驚きを感じた。

戦後、富山は、その自然環境を生かし、美しく復興した都市となった。雄大な立山連峰は、大量の雪解け水を湛え、これを資源とする水力発電から、アルミ産業が発

中学生作文優秀賞

「生きる喜び」

富山市立立山中学校三年 栗本 航季

僕は一年前まで、秋田県に住んでいました。秋田は、富山よりも建物が少なく、田園風景が広がっています。マンションに住んでいる人も少なく、僕の友達もほとんどが軒家に住んでいました。父の転勤がきっかけで、十二歳の時に富山に引っ越してくるようになりました。秋田を離れることに寂しさを感じていましたが、すぐ富山の生活に慣れました。富山は昔から豊かな自然に恵まれ、住みやすい町だったのだらうと感じ、悠々自適に中学校生活を満喫していたある日、祖父の言葉を耳にして、富山を見る目が大きく変わりました。

僕の母の父親は、富山出身です。祖父の家も富山市にあります。「修学旅行で広島に平和学習に行く」と伝えると、祖父はこう答えました。「わしも昔、富山の空襲を経験したから、今の平和の貴さが身に染みて分かる。あの頃は辺り一面焼け野原になった。多くの死者も出たが、道を歩けば生きている人を見付けられるかもしれないと思ひ、死者が横たわる道を練り歩いたもんだ。そんな富山が、ここまで回

展し日本海側随一の工業県となった。また、美しい富山湾は、様々な水産資源の恵みを私たちに与え観光資源としても注目されている。

また、災害が少なく、富山市を中心としたコンパクトな街づくりは、環境にも配慮した住みやすい街となり、先頃は、伊勢志摩サミットの環境大臣会合開催地として、国際都市の仲間入りも果たしている。

そして、江戸時代から長く続く「富山の売薬」は、富山に根差した産業となり、海外でも注目されている。このように、豊かな自然に囲まれ、その自然を活かし、そして歴史を大切に受け継ぎながら、更なる発展の可能性と歴史が混ざり合う街、富山をあらためて発見した。しかし、その素晴らしい富山も戦禍にあえば隣りに焼け野原となってしまう。

私たちは、歴史をしっかりと学び、二度とかつての悲惨を繰り返すことの無いように、先人が与えてくれた平和をしっかりと守っていく必要がある。

私は、今何ができるかわからないが、まずは、家族に、そして友達に、そして地球に感謝し、いずれしっかりと考えた考えを持って、小さくても、平和の中で富山や日本の発展に携わりたいと考えている。



城址公園内にある戦災復興記念像(天女の像)

復するなんて。平和っていうのはお金で買えないからね」

初めて聴いた話だったので、言葉に詰まりました。平和で豊かな現在の生活の裏に、戦禍で苦しんだ多くの富山市民がいたなんて知りませんでした。祖父の話聞いて以来、町の景色や自然の景観がどれだけ貴重なものか考えさせられました。富山を守ろうと戦った人、戦って亡くなった人、何の罪もなく命を奪われた人、そして、その家族。多くの犠牲者を出し、それでも希望を抱き、復旧活動に取り組んだ人々がいるからこそ、今の富山があると気付きました。先人の方々に、伝えきれないほどの感謝が込み上げてきました。

僕にとってこの富山は、ふるさと同様の思い入れがあり、愛着があります。ただ好きではなく、守っていかなければならないのだという強い使命感を感じています。この命とこの体、そして、生きる喜びを伝えてくれた富山という地に、恩返しをしたいです。その為には、もっともつと富山の歴史や伝統、文化を学ばなければなりません。富山の過去を紡ぐ語り部、伝承者として、よりよい富山を目指して貢献していこうと思ひます。

「未来につなぐ」

富山市立山田中学校三年 平等 佳乃

私は、便利で快適な今の暮らしが、これからも続いてほしいなと思ひました。最近では北陸新幹線ができ、県外との行き来がすく便利になりました。ますます便利になっていくこの富山は、富山県民のほこりです。そんな富山の伝統を受け継ぎ、守り続けていきたいです。富山は、治安が良く、食べ物も美味しく、自然いっぱいの素晴らしい所です。何年たっても、みんなが楽しく、平和に暮らすことのできる明るい未来になつてほしいなと思ひました。

私は富山県には、全国の人々から愛される富山県になつてほしいです。おいしい食べ物がたくさんあり、治安も良く、美しい風景がたくさんある、などという富山の良さをたくさん知つてもらいたいです。富山県民のだけれども、ここに生まれ良かつたと思ひ、県外、海外の人々に富山に来て良かつた、富山に住んでみたいと思ひてもらえるような富山になつてほしいです。この素晴らしい富山県がもっと便利で、快適に過ごせるようになるかも知れないので、そのようなことを想像すると、すく楽しくみになつてきました。しかし、必ずしも明るい未来

になるとは限りません。私は、以前テレビで鮭が絶滅するかもしれないと聞きました。私はその話を聞いてすくおどろきました。ふだん何気なく食べている物がなくなるといことが、想像できなかったからです。だから、富山にたくさんある美味しい食べ物、なくなる可能性も、ゼロではないのです。氷見でとれる氷見ブリ、富山わんでとれるホタルイカ、白エビ。この他の海の生き物たちも、絶滅してしまうかもしれない。富山の特産物であるホタルイカなどがなくなるにつれて、富山の自まんもだんだんと減つていきます。白エビは、白エビせんべいになり、子供からも大人気です。そのような食べ物、なくなると、みんなが悲しむと思ひます。しかし、そのために漁師さんがいます。養しょく漁業などで絶滅を防いでほしいです。みんなの希望がつまつた富山の特産物をみんなを守り続け、希望と夢でいっぱいになれる明るい富山を築いていきたいです。

先人は、苦勞の末にこの素晴らしい富山を築き上げてくださいました。だから、私たちが若い世代には未来につなぐ責任があります。その責任をしっかりと果たせるよう、富山県民一人一人が、今どうすべきかを考え、実行することが大切だと思ひました。

式典



1. 富山市の紹介映像

富山市長 森 雅志

2. 国歌斉唱

3. 黙とう

4. あいさつ

5. 中学生作文最優秀賞発表

富山市立呉羽中学校3年 砂 綾乃
「伝え、育むふるさと富山」

6. 戦災体験談

作 / 谷川 美枝
朗読 / 声のライブラリー友の会 金山 恵子

7. 代表献花及び一般献花

演奏 / レーベン弦楽四重奏団
第1ヴァイオリン 青木 恵音
第2ヴァイオリン 渋谷 優花
ヴィオラ 嶋 志保子
チェロ 富田 祥